【令和７年度災害対処訓練】

令和７年１１月９日（日）、自衛隊札幌病院（病院長　森陸将）は、令和７年度災害対処訓練を実施した。本訓練は、道央地区（札幌市）における大規模地震（直下型地震）、就中被害が大きくなると予想される冬季における地震を想定し、当初、前段訓練として午前８時に月寒背斜断層を震源とするマグニチュード７．２、最大震度７の地震発生の状況付与から開始され第３種非常勤務態勢に移行、病院当直司令が非常呼集を開始、病院職員は登庁後、アクションカード（災害時における活動内容が記載されたカード）に示された内容に従い、速やかに救護班の派遣準備、病院指揮所及び子弟預かり所を開設するとともに、職員の被害状況の把握及び病院機能の早期発揮並びに傷病者の受け入れを第一義として準備を実施し、初動対処要領の確立及び業務継続計画の実効性向上の資を得た。また、後段訓練として救急医療基盤の向上を図るため、札幌市内６コ病院（札幌医科大学附属病院等）からＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）２６名が参加し、自衛隊札幌病院と北海道ＤＭＡＴとの連携訓練を実施した。令和４年から毎年行われているＤＭＡＴとの連携訓練ではこれまで病院機能の維持・拡充のための訓練を主に実施してきたが、今年は初めて手稲渓仁会病院のドクターヘリの参加を得て、大地震において多数の重症患者が発生した場合においても平素の救急医療レベルを提供するための広域医療搬送に繋がる連携を実施し、ＤＭＡＴの持つ機動性と専門性を生かした新たな訓練を実施することができた。

訓練終了後は、ＤＭＡＴとの意見交換会を実施し、今後、更なる連携強化・能力向上に向けた共通認識を得ることができた。

自衛隊札幌病院は、継続して訓練を実施し、今後いつ如何なる事態が起きても地域住民の皆様、道民・国民の皆様の安心と安全を護っていく。

救護資材を積載する救護班

ドクターヘリによる患者の転院

救護班の準備状況を確認する副院長

陸自ヘリによる患者の転院

ＤＭＡＴと連携したトリアージ

発災後、速やかに救護所運営

負傷者を運ぶ搬送班

子弟預かり所の運営